

桜圃名宝展から

菊花紋吉野山蒔絵料紙硯箱 一具

木製漆塗

大正5年(1916)下賜

左/料紙箱 縦43.9×横35.7×高15.3cm

右/硯箱 縦26.3×横23.5×高5.7cm

金粉を密に蒔き付けて飾った、たいへんに豪華な料紙箱と硯箱のセットです。蓋表の中央には菊花紋を据え、その下になだらかな山の稜線と、そこに咲く満開の桜の花を描いています。また、蓋の裏面から身の見込にかけては濃密な梨子地に仕立て、水の流りに漂う楓の葉を表わしています。

文様は、金の高蒔絵に銀蒔を交えて表現されており、樹の幹などは、金の薄板を小さな方形に切った切金とよばれる技法で飾られています。

なお、硯箱には、銀製で桜の花枝を象った水滴と、縁を金地に仕立てた硯、さらに筆、錐、小刀、墨挿なども備わっていて、内容品が完存する作例として貴重なものといえます。

さて、この料紙硯箱の特色としては、まず、その精緻な蒔絵表現を上げることができでしょう。桜の花弁などにみられるように、高蒔絵で描かれた文様の輪郭線はきわめてシャープで、遠景にみえる桜樹の蒔暈し表現と好対照をなしています。また、蓋の裏にも、微細な金粉による霧がかかったような蒔暈し、付描による波の流麗な線、研出蒔絵による半ば水没した楓葉の表現など、きわめて高度な蒔絵技巧が凝らされていて、見事な仕上がりをみせています。

また、文様の面では、箱の表を山に桜樹を配した吉野山、内面を流水に楓を取り合わせた龍田川の意匠で飾った構成の妙に注目しなくてはなりません。

吉野山と龍田川は、いずれも現在の奈良県中央部に位置する景勝地で、平安時代以来、著名な歌枕(和歌



料紙箱蓋表部分

の名所)として、多くの歌人にその美しさを愛でられてきました。そして、ここで主要なモチーフとして描かれている桜と楓が、春秋の季節を象徴するものであることはいうまでもありません。このように、箱の表面と内面をまったく対照的なデザインで飾る手法は、すでに室町時代の硯箱などにその例をみることができます。この料紙硯箱は、天皇からの御下賜品として発注されたものであり、その制作にあたって、わが国の伝統的な蒔絵様式が強く意識されたことは、むしろ当然のことといえるでしょう。

(史料館客員研究員 小松 大秀)

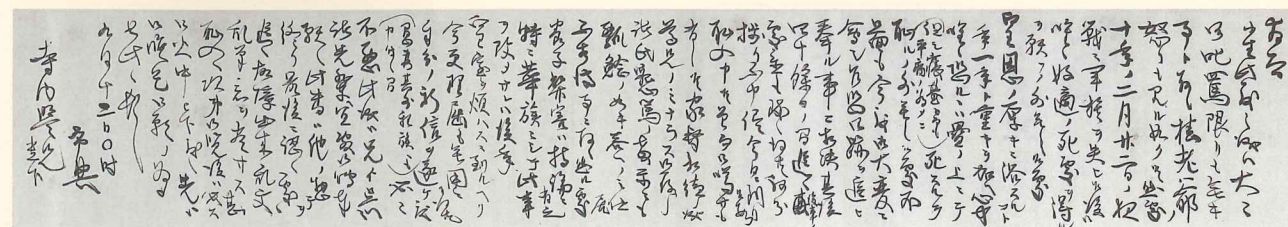


硯箱見込



料紙箱蓋裏部分

寺内正毅宛 乃木希典書簡(大正元年9月12日付)



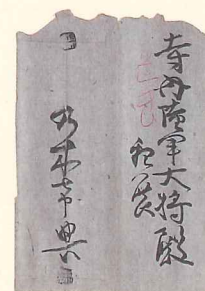
本書簡は、明治天皇の大喪の当日である大正元年(1912)9月13日に、同日殉死することになる乃木希典が陸軍大臣の寺内正毅に送った書簡です。

書簡の日付は「十二日〇時」となっていますが、12日から13日に変わる午前0時のことです。乃木は他の全ての後始末を終え、本書簡を最後にしたためていたところに「故障」が生じ、乱文乱筆となったことを恥じ入るといいます。このことから、本書簡が、乃木が自決する前の一番最後にしたためた書簡であることがわかります。

書簡の内容としては、乃木が明治10年(1877)2月22日、西南戦争の夜戦で敵軍に軍旗を奪われて以来「死処」を求め続け、特に軍人として暈の上で死ぬことを恥じていたこと、また死去した明治天皇の跡を追おうとしたが、後事の処理に大喪の当日までかかってしまったことなどが、あらためて確認されます。

また、乃木の長男・次男は日露戦争の際戦死したため、乃木伯爵家は断絶しかねない状態でしたが、養子を取ってまで華族の家督を嗣がせることは、後年皇室を煩わすとして反対の持論を乃木が有していたことがわかります。そして、このことを「愚妻其外親族」へ申付けたということからも、本書簡執筆時点では、乃木は自分ひとりが自決し、妻の静子を巻き込むつもりはなかったことが読み取れます。

このような「殉死」という行為が、「椿老翁」すなわち山県有朋や寺内など、残された他の陸軍関係者に迷惑をかけることは乃木も承知していました。しかし、寺内らへの暇乞いととも、上記の家督問題など後事を託すために、「遺言条々」(乃木夫妻自刃の際、白布



上/本紙 縦18.0×横109.4cm

下/封筒 縦21.4×横15.2cm

を覆った机の上の封書中にあったもの)とは別に、寺内宛ての本書簡をしたためたと推測されます。

書簡を受け取った寺内は、総理大臣の桂太郎とともに後始末に奔走します。その結果、大正天皇から3万円が下賜されることとなります。一方、乃木の意思に反して、大正3年(1914)、乃木の旧藩(長府藩)主たる子爵毛利元雄の実弟元智が聖旨で伯爵を授けられて、乃木家が再興します。それは、華族制度の原理を貫くという国家意思が、乃木個人の意思よりも優先されたことを意味しています。

(史料館研究員 千葉 功)



馬に乗った乃木希典(左)と寺内正毅(右)